

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

目指すは経済強国？

熊本市立錦ヶ丘中学校

一年 大津 玖心

私は、税金の使い道の中でも特に、文教及び科学振興費について調べました。
理由としては、ある選挙の候補者が

「日本は、今までは経済大国だったが、このままでは少子高齢化と人口減少の影響で、経済小国になってしまう。そうならない為にはこれからの若者が少数精鋭となり、世界と戦わなければならない。その為に行政は、教育にこそ力を入れていくべきだ。」
というような演説をしているのを聞いて、実際に現在の状況がどうなっているのかが気になったからです。

調べた結果としては、日本の国内総生産（GDP）は、1968年から2010年の期間はアメリカに次いで世界2位でしたが、中国に抜かれ2024年にはドイツに抜かれ、現在世界4位です。来年にはインドにも抜かれるという予測もあるようです。

また、国民1人当たりGDPは、経済開発機構加盟38ヶ国中21位となっており、これから人口が減っていく中で1人当たりの儲けが増えない限り、どんな世界に取り残されるというのは間違いなさそうです。

そこで、文教及び科学振興費についてですが、令和6年度当初予算では5.4兆円でした。これは、全体の約4.9%で一番歳出の多い社会保障関係費の約1/7の数字です。20年前からの推移を調べると、金額はあまり変わりませんが、全体の予算からの割合としては減り続いています。科学振興費についても、大学など研究機関への補助金などなので、日本の未来の為には、力を入れなければならない分野なのではないかと思いました。

税金の使い道には、色々必要なものがありますが、現状維持のためのものばかりではなく、未来の為の投資として教育や科学振興への歳出を増やしてもらいたいと思います。ただし、人口減少で税の収入も減り、高齢化で社会福祉関連費は増える中で、単純に文教の予算を増やすことは難しいと思います。

私たち学生も勉強を頑張りますので、議員や官僚の方々には限られた予算の中で、最大の効果の上がる方法を頑張って考えてもらいたいと思います。